

# 理科だより

発行

平成20年10月1日

編集 RIKADAISUKIMAN

## レンゲ草と根粒菌



春に咲くレンゲ草ですが、根にはコブが付いています。



このコブに根粒菌という菌が住んでいて、土壌の窒素成分を吸い取ります。植物はこの窒素を利用してアミノ酸を作り、タンパク質を合成して行きます。マメ科の植物には、この根粒を見る事ができます。

八百屋さんなどで枝豆が根付きで売っているときに、観察してみましょう。

## メタセコイア

アケボノスギとも言われ、生きている化石です。



これは化石のセコイアです。



こちらは博物館のもの。

メタセコイアは裸子植物です。裸子植物は雄株・雌株に分かれているので、受精に昆虫を必要としません。木に虫が付きにくいので、街路樹に適していると言うわけです。東京金町にある水元公園では「メタセコイアの森」があり、秋になると紅葉が楽しめます。上野の動物園の中にもメタセコイアが植えてありますし、近所の小学校にもありました。結構身近な所に化石があるものですね。

ちなみにイチョウも生きている化石の一つです。



## 秋の気配



女郎蜘蛛が出てくると秋です。蜘蛛の側でおいしそうな栗がなっていました。

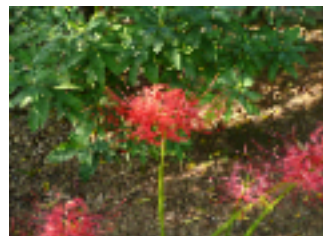


ところで、この栗のイガイガの正体は一体何でしょう？

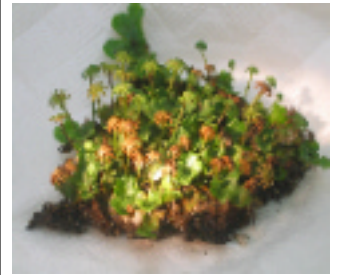
- ① 実の一部
  - ② 花が変化したもの
  - ③ 葉っぱ
- 解りますか？

答は③

花のつぼみを守るための小さな葉っぱで「総ほう」と呼ばれます。花が実になるにつれ、葉っぱがイガに変って行きます。



彼岸花（マンジュシャゲ）も咲き始めました。植物は正確にこの時期になると咲きます。彼岸花の根には毒があるので気をつけましょう。



自宅の近くに生えていたゼニゴケ。傘がやしの木みたいに見えたので、撮影してみました。そういえばコケ類は孢子で増えるんだっけ！



こちらのコケでは「孢子囊」が見えます。



トンボが空中で止まっていました。ヘリコプターのようなですね。



このトンボがいた所は、鎌ヶ谷の「離清水七面堂」と言われる所です。ホームページでも紹介されているので、興味のある人はご覧下さい。このお堂の下から清水が湧き出ていて、そこに自然が残っています。